

苦しいときこそ、煌きらめいていた。

1910年、革命前夜。

激動の果てに見たのは、アジアの夜明け…。

世界的革命家・孫文の愛と闘いの日々を描く
一大歴史ロマン。

孫 文

Road to Dawn

100年先を見た男



ウィンストン・チャオ「宋家の三姉妹」

アンジェリカ・リー ウー・ユエ チャオ・チヨン ワン・ジェンチヨン ヴィッキー・リウ

撮影:チェン・ナーイン 美術:テレンス・フォック 音楽:バン・グオシン、スー・ジュンジェ 録音:ルー・ホン、ウエイ・チンイー 編集:メイ・ズー プロダクション・マネージャー:シュー・ジェンピン

シナリオス:バー・ハイザー、リャオ・チーカイ シェ・ユーチン(マレシア) プロデューサー:ワン・ジェンチヨン チャオ・ジュンクオ シュー・ジェンピン 脚本:メイ・ズー 監督:デレク・チウ

協力:孫文記念館/提供:バンダイビジュアル/配給:角川映画 ©徳間映画制作

sonbun.jp/

今、孫文が熱い!!

近代への夜明けを告げた辛亥革命から100年！
革命に賭けた孫文の夢と想いが今、開花する—。



1900年代初頭、激動の時代を駆け抜け、中国、アジアのあるべき理想を高らかに謳いあげた世界的革命家・孫文。2000年続いた皇帝支配による専制政治に終止符を打ち、国をアジア初の共和制国家、中華民国建国に導く辛亥革命を起こしたのが1911年。それから100年経とうとする今、彼が唱えた理念は、まさに世界規模で花を咲かせようとしている。

国際感覚に優れ、遙か未来を見通す先見性、そして類まれなリーダーシップは、多くの人々を魅了し、日本においても、時を担う政治家、実業家、文化人たちが彼と深く交流を持ち、支援を惜しまなかった。



“100年先を見た男”と称される孫文は、彼の100年後を生きる私たちの今の時代に、何を予見し、どんな夢を描いたのか。

革命への理想は、苦境にあるときこそ、
輝きを増していた…。

激動の時代を牽引したどんな指導者にも苦難の時期があった…。
本作は、辛亥革命を成功させ、中国が近代国家への礎を築いていく直前の“革命前夜”、亡命の地ペナン（マレーシア）を舞台に、度々の



革命失敗による苦境と失意の中、暗殺の危険にさらされながらも、愛する人に支えられ、希望を失わなかった孫文の愛と闘いの日々を描く一大歴史ロマン。

孫文の思想の中心は、“人が人らしく生きること”であった。「霸道ではなく、王道を歩む」と唱え、力で相手に接するのではなく、それぞれの民族が自国の歴史と文化に誇りを持ち、他国を思いやることによって世界に調和と平和をもたらす、と力説した。それこそが、100年後の今、世界が実現させなければならない急務だと問いかけてくる。

苦しいときこそ、煌めきを失わず、自己だけでなく他者を思いやる気持ち、調和のこころを持つ大切さをひとりひとりに訴えたかけた孫文。



先の見えない混迷の時代を生きる私たちに、孫文の生き様は、まさに至宝であり、大きな勇気と希望を与えてやまない。



スン ウェン
孫文 (そんぶん)
生没年1866~1925

中国の革命家、政治家、思想家。初代中華民国臨時大總統。辛亥革命を起こし、中国大陸では「中国民主革命の偉大な先駆者」、台湾では「国父」と呼ばれ、海峡兩岸で尊敬されている。日本との縁も深く、300人以上の日本人が彼の革命を支援した。1925年「革命、いまだならず」と言い残して北京で逝去した。

孫文
Road to Dawn
100年先を見た男
sonbun.jp/

中国映画／カラー／2時間7分／ヴィスタサイズ／ドルビーSRD
提供：バンダイビジュアル／配給：角川映画
協力：孫文記念館 ©深圳電影製片廠



11月28日(土)公開

西武福岡駅直結 ソラリアテラ下
ソラリアシネマ
上映時間：アーブ案内 092(733)7373 / お問い合わせ 092(733)7375